

麗和 サッカークラブニュース

Vol. 33

平成 24 年 5 月 9 日発行 発行人 麗和サッカークラブ会長 星野 隆之

立場変われば

会長 星野隆之

28 名の新会員を迎えた平成 24 年度が始まりました。現役は一年生が 43 名入部し、114 名の大所帯になりました。(なんと浦高生の約一割がサッカー部員!) FC れいわは新加入メンバー 6 名を迎えて、若返りを図りながら県 2 部リーグ後期の戦いに入っています。浦高・麗和の名前を背負って戦っている現役・OB に出来る限りの支援をすることが私達会員の大きな役目の一つです。

しかしながら近年、若手 OB の会費納入状況が芳しくありません。実は現役時代にユニフォーム・サプリメント、様々な用具、合宿補助など、十分とはいえませんが、OB 会から支援を受けていたのです。「支援される立場からする立場へ」「指導を受ける立場からする立場へ」(菅野氏寄稿を必読) 変わったことを認識していただき、後輩たちの為に協力くださるよう、心からお願い申し上げます。(社会人 5000 円、学生・準ずる者 2000 円です、念の為)

さて、下記の通り平成 24 年度通常総会を開催いたします。総会の前には、新入部員のお披露目ゲーム、そして恒例となった一女サッカー部 VS ベテランチームのゲームも計画いたしました。懇親会では、昔話はもとより、仕事の事、就職活動の事など、実り有る会になるのでは、と期待をしています。

公私ともにお忙しい折と存じますが、多数の方々のご出席をお願い申し上げます

平成 24 年度麗和サッカークラブ通常総会

期 日	平成 24 年 6 月 10 日 (日)
場 所	県立浦和高等学校 グランド・麗和会館 2F 会議室
日 程	9 : 30 若手 OB VS 新入生 (43 名)
	11 : 30 ベテラン OB VS 浦和一女サッカー部
	13 : 00 総会 協議事項 (1) 平成 23 年度 事業・決算報告
	(2) 平成 24 年度 事業・予算 (案)
	報告事項 (1) 現役報告・FC れいわ報告
	(2) その他
	13 : 30 懇親会

現役情報

サッカー部監督
松村道彦(高 27)

前回発行の会報に掲載できなかった冬季の試合結果、及び新年度当初の活動について報告させていただきます。

○新人戦南部支部決勝トーナメント (H24 1/14・1/15)

1回戦 vs 浦和北 2-0

2回戦 vs 国際学園 0-1

○筑波カップ 3/26~3/29

一次リーグ vs 新潟西 1-1 vs 札幌東 1-0

vs 武蔵 5-1 vs 高崎 0-1

vs 宇都宮 1-2 リーグ4位

7・8位決定戦 vs 学習院 2-1

○浦和カップ 4/2~4/5

一次リーグ vs 大宮ユース 1-2 vs 矢板中央 1-2

vs 敬愛学園 0-2 リーグ4位

○高校総体南部支部予選

4/30 1回戦 vs 浦和工業 10-0

5/4 ブロック代表決定戦 vs 大宮開成 8-2

県大会は6/9 (土) より開催されます。

○夏季合宿予定 8/3(金)~8/6(月) 3泊4日

長野県蓑原高原・・・(昨年と同じです)

筑波カップ 浦和カップとも良い結果を報告できず、申し訳ありません。ただ試合内容は昨年の秋以降着実に良くなっております。ボールポゼッション率は高いので、決定力の向上をテーマに取り組みたいと思います。

現在3年生28名、2年生43名、新入生43名、合計114名の部員を抱えております。1年生は5月下旬より始まるU16リーグに向けて渡部先生の指導の下、トレーニングを開始しております。OBの皆様にもご指導いただければ幸いです。よろしく願いいたします。

F C 麗和報告

主将 金子 拓矢

活動メンバー

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 坂本 太樹 (高 58) | 18 堀 達也 (高 55) |
| 2 杉田 広二 (高 52) | 19 中山 誠司 (高 42) |
| 4 谷口 尚矢 (高 58) | 20 中澤 洋 (高 53) |
| 5 田中 洋平 (高 58) | 21 大村 春洋 (高 58) |
| 6 鷹筈 謙 (高 55) | 22 丸藤 裕太 (高 63) ※ |
| 7 鈴木 大樹 (高 59) | 23 藤原 惇悟 (高 59) |
| 8 石田 和希 (高 60) | 24 工藤 泰右 (高 60) |
| 9 藤井 優樹 (高 62) ※ | 25 岩本 健一 (高 64) |
| 10 安在 大樹 (高 52) | 26 大谷 征史 (高 56) |
| 11 永井 亮太 (高 57) | 27 山口 大貴 (高 64) ※ |
| 12 金子 拓矢 (高 58) | 28 中嶋 遼 (高 64) ※ |
| 13 井上 峻也 (高 59) | 29 田山 義高 (高 55) |
| 14 塩野 貴之 (高 63) ※ | 30 斉藤 龍馬 (高 49) |
| 15 栗山 健吾 (高 56) | 31 高橋 真喜 (高 59) |
| 16 白石 翼 (高 57) | 32 黒川 亮佑 (高 59) |
| 17 杉谷 俊洋 (高 62) ※ | ※今シーズンからの新メンバー |

2012年度は新たに6名が加わり、32人のメンバーで埼玉県2部リーグを戦っています。とはいえ、社会人が大半を占めるようになり、ギリギリのメンバーでの試合が多くなってきています。これからの新加入大歓迎です。

練習は毎週水曜日(21:00~23:00)にイオン大宮屋上のフットサル場で行っています。練習参加希望の方は金子(高 58)frontier87arrow@yahoo.co.jpまでご連絡ください。

転居等で住所が分からなくなった会員が増えております。同期の方たちで、お分かりになる方は下記の担当者にメールまたはFAXにてお知らせください。また、ご自身の転居の際も当会へのご通知、お願い申し上げます。

名簿担当 宗久 信男
FAX 048-875-8075

メール

OB 会長 星野 隆之

メール

忘れ得ぬ指導助言

～ 川口玲雄先輩(中 45) ～

高1 菅野一郎

『麗和』と表記された母校の「サッカー部誌」には、先輩が後輩を指導した事例が記述されているが、十人十色という言葉通り、その指導方針、内容、方法等は様々であり興味深いものがある。

太平洋戦争終結後の昭和 20 年秋の頃から再開された部活動は、戦中の物資統制に続く戦後の極端な物資欠乏の時代故に、用具の調達には苦勞を強いられたものだが、無い無い尽くしの中であって、後輩を指導するために母校を訪れる先輩方は多く、現在のように専任の監督・コーチが存在しなかった当時であっては、先輩諸兄からの指導は貴重なものであった。それは学校創立年代に伴う部の伝統で大きな開きがあった県内・市内各校には望むべくもない優位性であり、そのことが母校サッカー部が他校に先駆けての競技力向上に役立ったものである。

先輩諸兄から受けた指導には、齢八十代に達した今でも忘れ得ぬものがあるが、それらの中で、ただ単にサッカー技術の進歩向上に止まらず、私が社会人として選択した学校教師という職業の上でも大きく恩恵を蒙った指導助言がある。

旧制中学 4 年生 2 人に 10 人近い 3 年生で編成されたチームで、私は当時のシステムでいう左ウイングを担当していたのだが、ある試合の後で川口先輩から呼び止められ、私が犯した初歩的なミスについて指導助言を受けた事があった。

それは、ウイングプレーヤー特有のラインプレーと称せられるタッチラインぎりぎりの相手との攻防において、私の視野の狭さから縦への突破に固執するあまり、味方との連携に欠けた部分があったことに関するものであった。

サッカーの試合において「周囲をよく見ろ、視野を広く持て！」という指摘は誰でも口にする事であるが、私が受けた川口先輩からの指導助言には、私が犯したミスを指摘する前段に、指導を受ける後輩の心を傷つけまいとする心遣いがあったのである。「あの縦に突破しようとする菅野のプレーはこの局面ではベストであると信じて試みたのだろうが、

もっと視野を広げれば別の選択肢があったのだ。」と状況を解説しながらも、私のミスプレーに等しいそれに理解を示しつつ更に有効なプレーがあったことを気付かせてくれたのである。

様々な指導形態の中では、怒気を感じさせる叱責ともとれる指導が見受けられるものだが川口先輩からのそれは、まさに懇切丁寧という言葉が当てはまるような、そして何か気品というものを感じさせる表情と言葉遣いであり、川口先輩の人格から滲み出たその助言は心に響くものがあったのである。

後年、学校教師の職に就いた私は、学習指導においても生徒指導における手法の「共感的理解」を応用した指導法で生徒に接してきたものだった。母校のグラウンドの一遇で受けたあの一言は今も忘れられないのである。